足利家并古河公方来由

838
96

国立国会図書館　タイトル『古河城来由』 請求記号 838-96

ガラス使用

838.
838
96

国立国会図書館　タイトル『古河城来由』 請求記号 838-96

ガラス使用

足利家并古河公方来由

元弘ヨリ惠安マデハ
明大平紀ナル故略之

抑公方ニ先祖足利將軍源尊氏公ヨリ剖歟

国立国会図書館　タイトル『古河城来由』 請求記号 838-96
ガラス使用

[illegible]

北総州古河長谿

一向寺

顕[illegible]氷之

足利家并古河公方来由　元弘[illegible]明大平記[illegible]

柳公方之先祖足利将軍源尊氏ハ剣敵新田

左中将義貞と暦應元戊寅年閏七月二日

越前国吉田郡藤島ニ於ケル郷ニ対捕

天下ハ[illegible]ニ振リ[illegible]ニ治世廿二年延文三戊戌

年四月廿九日寤[illegible]ニ[illegible]ニ御子

権大納言義詮卿代と嗣[illegible]ニ治世拾年貞

治六丁未年十二月七日三拾八歳[illegible]他界[illegible]会弟

左馬頭基氏（[illegible]）古河公方之元祖[illegible]

今[illegible]連川由先祖と[illegible]会[illegible]ニ関東

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『古河城来由』　請求記号 838-96

ガラス使用

八列并伊豆鉄後佐渡出羽陸奥以上指三ヶ
国しうるゝ事し是とし貞治六年四月廿六
武拾八歳ゟ被率去御子
氏満其子
満兼其子
持氏之相續之巳代謙倉公方御子

一 賢五丸
二 其五丸
三 安五丸
四 梅五丸

是後小成氏云とゝ
古河公方なり

梅将軍義詮之御子義満公ハ應安元戊申
年小指是歳ゟ之将軍を嗣せのひ細川右馬頭
頼之ハ執事也しゝ天下を治メ事ハ同之
年ハ秋
後醍醐天皇之王子
後村之ハ為御方南方ハ歌泮ゟより細川頼
之斯波鉄中守義将畠山橘磨守基國
山名陸奥守氏清赤松筑前守満範等
大勢を率し發向せしゆへ楠左馬頭正儀

合戦して楠を河内の南に追込て南方に敵
押として山名氏清を和泉堺に留置川諸勢を
呐陣す又九州にて菜池肥後の武光神南
其御方にして良懐親王代吉野殿の中下し
號ス　征西將軍に宮筑紫を討ち留し
企るにより尾張かきしにて無安七年に去
征夷將軍義滿都より九良に發向して小武
大友伊東大内を先陣として細川斯波畠
ち岐佐々木京極一色赤松今川荒井等

都合拾万余騎鎮西に至り菜池に合戦
武光討負ゆ降系を乞ひ依て筑紫を
同代ゆは後河蒲原にて今川伊豫守貞世
入道了後を以て尾張同九月義滿公九州の
敵陣を菜池降系にて三種神器再
び捧　宮中
天下恭平にて永徳元年の春
後魯融隱神に將軍の亭に行幸アリて
義滿を任大政大臣是ゆ号　公方是公方の始也　孫

將軍家ニ威光ニ和シ見ル其後山名陸奥守
南方ニ於テ楠治部左衛門正勝ニ救度戰ヲ
無度山名得勝利是ニ正勝ガ又正儀去ル
頃病死ニ依テ南方ニ勢ヲ失ヒ故ト云云
然ル如ニ山名威勢ニ誇リ對 將軍謀
逆ニ成ル 明德二年十二月下旬和泉の堺ヲ
攻上ル大將ハ山名氏清嫡子左ニ助時清次
男氏始之少輔滿氏三男小治部熙氏山名權歴
守滿幸同上總助義救同中務大輔氏冬

山名彈正弼義理同後河守氏重小林經理
亮同上野介平下内地ニ於テ治中ニ攻入
將軍ニ味方ニ付細川武藤ヲ頼之門和元
斯波義重畠山基國大内義弘今川泰範
佐々木滿高京極高詮赤松義則山名時熙
同氏幸等防戰ニ悉ク敵散乱ニ山名
陸奥守氏清大晦日ニ門野ニ於テ自害ス山
名ニ一族或ハ討死又ハ終ニ畢ル日ニ年
ニ復畠山尾張ヲ義深堺ニ發シ楠左馬頭

正勝と合戦し楠が鎗る手劔破し陳代薄を
正勝十津河を引鎗後其後正勝が合戦兵藩
尉正元潛に京都に来り将軍を懇ふと云ひ
弱きを殺る楠が一味菊池肥後守貞頼并に
大宰に少貳忠資千葉大村日田星野志星
等籠紫にて源妹を則大門兵義弘平を既に
将軍義満之拾八歳にて入道しまゝ號ス
鹿苑院道義 無水六年に斯波義将細川頼
之畠山義深代為之管領山名時熙京極

高於赤松義州を以定口職に対斯波を號ス武
衛 天下に政道を行ふ大門兵義弘之管領
口職に洩ぬまゝ恨て和泉に堺に引鎗り妹
叛を俟し 公方義満公八幡に屯し成管領
職に面しと泉州に被遣堺を攻る大門兵衛
大夫多々良義弘戦死を其子持世を浮気す
無永十五戊子年 宵月六日 公方義満入道々
義持を嚴にて薨御治世四年御子 義持公
代を嗣ぬ天下悉く治り四海波静にして

法人義歳と唱ひける熹永二十癸卯年に
其御子義量卿に代を譲りたまふ如く同
二十二乙巳年二月廿七日義量卿拾九歳にて
他界正長元年迄治世分六年前の将軍
義持公四拾二歳にて正長元戊申年正月十八日
薨しまふ治世十五年也御世と嗣せまふべき
御子無し故鎌倉　左馬頭持氏の御息
賢王丸と御猶子ゝ可被成由に無言なる故宮
領四職に軍相義して義持公の御舎弟に

僧青蓮院に義勇と還俗なしまゐらせ号義
教と六代目に将軍に拵ひ給ひ永享二庚戌
年将軍に進む永享十年鎌倉の　賢王
丸於鶴ヶ岡　八幡宮元服號左衛督義
久其後執事上杉安房守憲実を名
持氏卿に諫詞しまゐらせ賢王殿御元服に依紀先
例京都に　公方にて可給ひ達とゆへ
二家引去るに依て憲実憤りと　京将軍に
詣ふ義教公刑今川上総介範忠武田太郎

信重小笠原信濃守政康并武藤之名代
朝倉右衛尉效景等数万騎代率し
謙念ト攻ル事上杉憲実此時鎌倉ヨリ上方
勢と同志ニ合戦しける当謙念討負ヲ一
己未年二月十日　持氏　義久永安ニ
加ヘ自害義久の弟其子尾安王尾とハ共に
浩城潭正氏朝同七郎持朝寺迎結城ニ楯
籠る上方勢并ニ上杉一族等發向のよしを
軍野州小山宿ニ出張して大ニ攻戦ニ而吉

元年四月十六日氏朝持朝父子悉く討死す
春王　安王　弘虜て弘謙年又夫人捨ケ年
とる也て室徳二庚午年　持氏卿ニ四男
梅王尾　鳥頭成氏と上杉憲実此姫として室
東の士卒たらしとして再び謙念ニ吾へ警
昌得時也ニ上杉憲実嫡子憲忠を母敬して
殺害して依て謙念ニ勿論関東鎮安發
動して去ル依て成氏卿謙念ニ吾任不安

或説ニ憲忠ガ父憲実ハ持氏公ノ讎なれバ迚
成氏公憲忠を害ラルト云云

下総國古河に城稱しかに吏令鎌倉領拾三ヶ國
悉く動乱しく面く各々に弓箭を出しかば
闘諍(トウゼウ)止時扇ヶ谷(ヤツ)の上杉修理大輔定正
大田左衛入道道灌(ヲウ)ハ老臣にして武蔵相
模下総を伐る山内上杉民部大輔顕定ハ
長尾張守と長尾として上野越後佐渡
武蔵内相模内伊豆國を伐る其威漸
く振ひしかど出羽奥州にも彼下知ならず

隨ひ如上杉先祖の上原栗井に居住し開東
武門統領(トウリヤウ)として管領(クワンレイ)にまでなり越後
にて憲政が代に高く武道悉くなりしに
相州小田原に城主北條左京大夫氏康
時を得て伺ひ出馬しく平井領を武州
越に城を築き家東久谷の上総公綱成(シゲ)を
入急なる上杉憲政是ハ右近さんと平井
多賀ひと住し川越ハ攻見北條氏康此由
を年して大軍を以て天文十六年七月廿日

夜後浩しく悉く追崩す憲政ハ遠ホウ
く平井に帰るに後度々戦ひて上杉方討負
け天文十九年秋戦後ト宰浪して長尾彈
正大弼輝虎と頼て則名字を譲る今茶沢々上杉ナリ
是ヨリ
成氏卿古河御居住在り其御子 従四位下左馬頭成氏公ハ号乾亨院殿ト
政氏 従四位下左馬頭政氏公号耳堂院殿ト 久喜ニ耳堂院ニ
右古河御城ニ延生御其様古来産為法税
減地士御免但し六万八千九百八拾八坪古河
町 政氏 御子

高基 御子 従四位下左馬頭高基公号千光院殿ト
晴氏 御子 同所左衛門佐晴氏公号永仙院殿ト
義氏 同所左衛門佐義氏公号香雲院殿ト
已上五代相續て坂東ニ古河ニ方ト云
御本丸居住ニ同百二拾五年
義氏公御息女是ヲ所巣之御所ト云 号徳源院殿ト
古河姫君 天正十五年丁亥春野州喜連川ニ所移リ
別図朝公室所巣ニ住ス当三拾七年
喜連川左兵衛督図朝

同左馬頭頼氏
同右衛門督義親
同左衛門督昭氏
同右衛門督氏春
同左衛門督茂氏

右衛門院殿出嫡子
河内守義親号天壽院殿
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

家小赤雲則祐が孫義則が子播磨守満祐
天性少兵[illegible]を将軍常に毀弄せらる
其上満祐が息女を為給仕居奇利[illegible]
依又嘉吉元年に変[illegible]赤松が[illegible]備前

播磨[illegible]を没收し汝が二従兄弟[illegible]
貞村に可[illegible]
同教康父子此[illegible]を[illegible]雖深恨色に[illegible]
大小[illegible]
義教公を[illegible]赤松が亭に御成と
有頼則嘉吉元辛酉年六月廿四日入御[illegible]
遊宴[illegible]
持氏に[illegible]福井[illegible]
に近習[illegible]
持氏を[illegible]
憤[illegible]
[illegible]

満祐太刀を授まる而時に　将軍を半弑
義教四十八歳治世捨ゝ年に扨赤松父子
播州白幡の城に引籠り京都に騒動不
斜　将軍に御嫡子義勝八歳に成ひ
しを　主君にして播磨を攻る進まれ
細川太宗交持之同讃岐守持常大内介持世
赤松伊豆守貞村武田大膳大夫治賢攝津ハ
山名右衛門佐持豊同修理亮教清門持豊
教之等各赤松と大に合戦アリ山名に一族

大仙口より乱入るに依て同九月十日赤松満祐自
害し嫡子彦次郎教康其後伊勢に死亡ス
嘉吉二癸亥年七月廿日　将軍左中将義勝
落馬に依て他界壽十歳治世三年法令
弟文安弐乙丑年　将軍に進む義政八歳に
て代を嗣ぬ斯る享徳二年に変し須より
畠山尾張守政長と畠山伊豫守義就と従
弟なれども不令之甚敵と政長ハ管領左衛門
督持國入道徳本が甥なりを持子に従義就

ハ實子也 徳本が実子なり 依て朱家督を論
ハ細川勝本を政長ハ具員し山名持豊を
義就を尚擁し此後河内大和を通して闘諍
止時なし又ハ民清治部大輔義健卒去
其子故に左衛佐義敏を擁子とせしハ後不
可然とて治部大輔義廉を又民衛と依
て確執あり又富樫ハ所治識を治部政親を
叔父の安高と諍ふ細川勝元を政親を持
畠山徳本を安高を救ひ云ひ云ひ去れ程

公方義政公ニ指出来ハ如ひて御子達ハ
依て其合算僧義尋に天下を譲て給
也義尋御辭退し及志ハ達ハ依て
寛正四年ハ御還俗有て號ス今川
大納言義視ト細川右京大夫勝元ハ老臣ハ
定むる也 義政公天下ハ執行体ニ
同六年 義政公御嘉訓男子御誕生
号ス 義尚山名右衛佐持豊入道宗全
を老臣とせられ依て細川山名乃当臣内ハ

不和之意仁元年に春畠山義就と畠山
政長と確執に仍て遂に天下の大乱となり
於京都合戦まで政長方にて細川右京大夫
勝元は大将として京極持清赤松政則
斯波義敏富樫政親武田國信以下其
勢六万騎内裏々東山に陣ス義就方に
山名持豊入道宗全は大将として武衛義
廉一色義直ち政成粮佐々木ある粮大内
に政弘以下都合拾弐万騎帝闕の西紫

陣し日夜且當に軍さ迫合止時なし文明
九年に及前六年後六年以上拾三年に間
軍戦をてて其後國々迄り尚而て闘諍
不止云云　今川義視卿大乱を甚しく
伊勢國司北畠教具が弾し雖越給
義政公に來洛迎ふ飯洛其後又濃州ち岐ち
山下向之應仁以後兵乱乃故に　禁裏も焼
乞し本朝の舊記紛失し公家の傳記悉
くせり　後花園上皇も將軍の亭室

所殿ニ而崩御被成　文明九年之冬
義尚公補征夷大将軍同拾弐年　義政公
東山慈照院ト號隠居シ茶の湯ヲ好数寄
道具ヲ数ハ名香ヲ焼シ立花ヲ賞シ盆
盆石ヲ求メ畫圖ヲ楽ミ古筆ヲ集メ彫物ヲ
奇也名作ヲ撰ヒ珍器ヲ賞シ風流ヲ盡シ
かく東山奇物ヲ弄ヒノ事専ラ常事也ト云
治世二十年長享元年ニ召依不来六角高頼
叛逆ニ依ル　義尚公江州ニ発向依未果

山ニ引入　将軍ハ則鈎ノ里ニ陣ヲ堅延徳元
己酉年三月廿六日江州鈎ノ里ニ而　義尚公廿五歳
出陣ニテ病死也治世拾五年ニ而代ヲ可継方無
之故　義視卿ノ御息　義材ヲ　義政公
御甥也是ヲ御猶子トシテ補　大将軍義材
ト後ニ義植ト改ム度々将軍ト成又　義政公
ノ舎弟伊豆ノ堀越ノ政知卿ノ御子　義澄モ
慈照院殿ノ御甥ニ而是モ可然御名也
延徳二年正月七日　慈照院義政公寿算五十五薨

ゝる仍ら明應二年ゝ春畠山尾張守ゝ將軍
義材公を奉伴河内國ゝ發向し畠山伊豫守
義就ゝ子彈正少弼義豊ゝ嬰田城を攻
義材公并政長ゝ正光ゝ不陳ゝ能々知ゝ管領
細川政元將軍ゝ恨ゝ歎ゝ兼ゝ同意し
四月廿日郡ゝ正光ゝ攻ゝ政長を討ゝ攻
長ゝ子尚順ゝ紀州ゝ落去ゝ　義材公好ゝ
ゝ周防國山口ゝ窄浪大内介義興を憑ゝ
治世四年也同三年ゝ細川太宗大夫政元畠山

義豊等伊豆ゝ　義澄を奉迎之君也
ゝ補大將軍永正四年ゝ夏細川政元内衆
澄之ゝ爲家人殺ゝ治中騷動ゝ大内介義興
是を率ゝ同六年ゝ九州中國ゝ勢促し
前公方義材卿を奉伴上方ゝ攻上ゝ因茲同胥
十六日　將軍義澄公并細川澄元同政賢以下
江州ゝ沒落し也同六月八日　義材公入洛御名京
改　義植再補　大將軍大内介多々義興
を被任管領同年ゝ參爲　義澄公味方ゝ三好

能前守長輝兵を率し阿波國を攻る先り
漂(テウ)して江州を佐く木高頼京都に入然ども
軍に利ニ好長輝弟長光同長則等京都於
百万遍智恩寺自殺ハ此ニ好ハ小笠原長清が
後龍成しが阿波國にて一宮と号し其後
ニ好し改る永正八年八月十四日　義澄公近江國
岡山にて病死ニ拾弐歳治世十五年之　義澄公之后
細川右馬助政賢佐々木大膳大夫高頼深く歎き
薨逝を密(カク)して兵を起し俄に都を攻るに有門分

義植公并　管領大内介義興等丹波國落去ス
亦ゝ愛義澄公病死ハ由漏(ナシ)ゆゑ　義植
公丹州ヶ能治同八月廿日於舟岡山合戦細川
政賢戦死ハ江州ヶ敗北　同九年春
義植公江州ヶ発向佐々木高頼ハ攻ら軍さ
世利して　公方甲賀山ヶ入敵ハ防く由越前
大寺朝倉弾正左衛門孝景(ヨシカゲ)軍ニ兵を率し
江州観音寺ニ城ニ向く佐々木甲賀山表を引
拂居城観音寺ニ籠城ハ　将軍甲賀山

より服京同十六年之秋大内介義興（ヨシキ）　義植
恨之あり京都分住國周防山口城に服る大永元
年之其細川武藤守之國三好藤勝之長慶（ヨシ）
佐久木大膳大夫之称号前公方　義澄公之法子
義晴と和立都是と世間に為公方と同二年
四月九日義稙八歳にて他界治世十三年始の字
と都合拾七年也将軍之扱　義晴公補
征夷大将軍細川高國と任管領号右京
大夫是ハ兼之管領政元が子也其後也日成

子細之ある人高國　義晴公に恨之有る大永元年
之比四國に趣き同七年之冬細川高国三好長慶
河波國分攻上る則　公方義晴都之西榎（カツラ）川小
出張以細川晴元朝倉孝景（ヨシ）防戦し各武功
少依之河波皆と追崩し雖有御勝利之國
於天王寺迄に留り闖（ウガチ）京都依之享禄四年
之日事之夏細川右京大夫晴元措州に下向し
細川武藤守高國と従弟ながし相戦に終に
之國討負尼ヶ崎にて自害す晴元を政元か

甥澄元が子之恐るに天文八年之比ハ　公方ハ晴元
謀し闘諍止時なし　将軍京を去り後
桜木民部大輔植綱が館に入後に又皈京しかに
天文十五年之冬義晴公御代を御子
義輝公に譲り同於六年之夏　公方法父子
北白川に要害を以構之同七月十二日細川晴元
佐々木定頼北白川之城を焼拂　将軍
去江州坂本に篭居之後和睦法注し晴元
定於坂本に来向之同茲公方　御父子両京

同十八年之夏之好筑前守長慶ハ細川ハ国
が子息治部氏綱を以立攝州中島之城に居陣
之聞之細川右京大夫晴元攝州に勢し之宅
此城に陣を之好下総守長秀入道宗之晴元
一味にして江波之城に在て氏綱長慶と合
戦度也同六月十一日江口之渡りにて宗之下細川
甥乃長慶と合戦　将軍敗北之好宗之入
道戦死を候　公方御父子并細川晴元弟晴賢
同元常佐々木義賢以下京城去て東坂本城

旅館して丁七月九日三好義前事長慶入洛之帰
面摂州に帰る去年ハ長輝が孫薩摩ゟ長基が
子也但し細川乃落居なり　天文十九年之春　将軍如意ヶ
嶽に要害を拵号ス宮大山中ト　公方移ス
同六月四日　前将軍義晴病年ニよりて於宮
大山に薨ゆ御年四拾歳治世廿六年四年
之後三好長慶摂州ゟ上洛し東山ニ相関ゟ
大津抔ニ楠籠　将軍方ハ士卒を追拂
要害并人屋之悉く焼拂摂州に帰る其後

義輝公と細川氏綱三好長慶ト和睦有ニ
天文廿一年二月廿八日　将軍御上洛ニ日細川
晴元落髪して如舞ニ　水縁ニ初の黎
毛利元就朝倉左馬　義昭京長尾弾正少
弼輝虎を相伴鹿ニ召加へらる同四年
二月廿四日三好義長落　将軍之所妹
成三月晦日　将軍と三好ゟ亭ニ御成
御中受ゟ御相伴泉細川右京大夫氏綱
第右馬頭藤賢三好修理大夫長義子

息維前也吉良松永彈正久秀之門七月
三好義長頓死先ニ家臣松永彈正毒害
せらるゝ云々義長子なき故弟左京大夫
義繼（ツグ）と家督とす後長兵を老死ニ今
義繼ニ若輩なり松永ニ好侮の者ニ
威勢あり　将軍ハ自ら衰微なれハ今
三好松永が謀叛を以て兵を姫次第之　義輝公ハ
萬松院義晴公之御嫡子也弘治永禄之
頃及　天下暫く治りて阿波修理大夫長慶

近江佐々木大膳大夫義実（サネ）なるに若畏服申ニ依り
治中穏ニ之事法人安堵乃思ひと頻然ニ
三好長慶佐々木義實ニ当将ニ病死す佐々木
ガ子息修理大夫義秀ハ愚意之三好ガ子息
左京大夫義繼ハ若輩ニ依て家来松永彈正久
秀一万事を執行ニ依て禮儀悉く乱ニ
上下ニ行来を危蹈（アヤブメリ）係処へ案内ニ三好ガ臣
彈正忠久ニ長義繼ニ謀叛を近ク竊（ヒソカ）ニ京都ニ
人数を集し永禄八年五月十九日俄ニ

将軍之御所を吾圍むと其須臾世間靜靜
如しかば君を御用公もなき故に謀叛人思ふ
營中に攻入即時に　公方を其穢御年三拾
歳法舍節度東京良興福寺一宗院覚
慶治外全閣鹿苑院周暠をば即其害
京都に対手を出る覚人参早く法名を書
山を逃退入王る伊賀に於夫々江州甲賀に以
其後矢嶋卿法務即御還俗をて号
義昭公統る三好左京大夫義継同山城守存保

入道笑岩松永弾正忠久秀岩成立税助参行
四人を看て相議して前笠　萬松院義晴公の
御螺右馬檀頭義維を御息　左馬檀頭義栄
卿を永禄九年を冬　天下此色に成進也然
京都靜謐也然　新将軍義栄公永禄
十年八月中旬の腫物ひまふ門九月十日
以拾六歳にて卒去しまふ三好を始め衆
方は面に深く愁傷ひと云　矢島にて
御還俗を後　義昭公若狭に小濱に居

あひ越前の法師より其分法門より織田上総母
平信長と憑ゝ和徳八年分同指是年まで
四年御座也近江大和山城ゝ敵を信長追拂
永祿十一年十月十六日信長供奉　義昭公ヲ
則任從更大將軍從之位極大納言ニ治世
五年天正元年信長小彼大集　天下
足利將軍家十五代自建武二至天正元年
合卅百二十九年也

古河御城主代々

天正十八　小笠原兵部大輔秀政　十二年御持　六万石
慶長七　松平丹波守康長　六年御持　七万石
同十二　小笠原鳥佐伝之　十五年御持　二万三千石
同　同　鳥佐伝政

元和三

同　八

八年ト申 此社未有
又寛永二丑九 此社未

奥平美作守忠昌（一サ）　六年御持　拾万石

宇都宮ニ出来候　御時代ニ出来申ニ付所ニ
黄剣長谷曲輪　庭所曲輪　天神出来
和ニ新所ニ出来　後ニ出来　今ニ松平ニ移ル

永井右近大輔直勝　拾弐年御持　二万六千石

御時代御城ニ出来　是ニ八万石ナリ

同　信濃守直政　直勝ニ出来ル
御知行同断

渡ニ御不替　御時代中国ニ小山ニ
海ニ松並ニ出来ニ　拾弐年御持
表通門ニ出来ニ

寛永十

十一年ニ　此社未有
十三年ニ　此社未
十七年ニ　此社未
十九年ニ　此社未
又慶安一二　此社未

七井八炊頭利勝　拾九年御持　拾六万石

御時代歩役ニ役ニ小物成ニ赦免
原所ニ所ニ組ニ裏ニ原村ニ云ヘ
此所ニ分ニ原所出ル

同　遠江守利隆　拾二万石

右ニ拾六万石ニ付
壱万石　中　兵庫守ニ　配ル
壱万石　同　銀兒守ニ　江戸原出殿ニ
壱万石　同　信濃守ニ　出ル移ル
御時代ニ階櫓出来

同　大炊頭利重　拾万石

右拾万石ニ付
壱万石　周防守ニ

国立国会図書館　タイトル『古河城来由』 請求記号 838-96　ガラス使用

延宝九

貞享二

同　帯力利次　（出郷行）　同行

同　周防守利益（マス）　七万石

天和元酉年　志列ニ付ニ　出不替

堀田筑前守正俊（トシ）　五年御持　拾万石

上列　安中ヨリ

同　下総守正仲　出ニ付　同行

山形ニ出不替

我万石　伊豆守ニ

一万石　去郷ニ

松平日向守従之　拾年御持　九万石

元禄七

同　壱岐守忠之　八万石

右九万石之内

壱万石　次郎次郎　犯分ス

右之壱四郎　礼ニ付ニ御知り上ル

松平伊豆守信輝（テル）　拾九年御持　七万石

此時代此時拾年古河城ニ付

正徳二

享保十三年　出社来有

又寛文二年　出社来有

同　伊豆守信高

正徳弟年　三万石　吉田ニ出不替

本多中務大輔忠良　拾九年御持　六万石

三列　并ニ名人ヲ

同　美濃守忠敬

石列　濱田ニ出不替

宝暦九

同　十三

安永五年 仙社示有

文政六撥八年

又文政八年ニ 仙社示有

松平周防守康福　六万四百石

宝暦十三未年三月岳濱ニ而家督　六年御持

土井大炊頭利里　七万石

安永六ニ而逝去

同　美濃守利見

安永六ニ而逝去

同　土井大炊頭利厚

文政五壬午年八月逝去

同　周防守　八万石

文政五壬午年十二月廿二日 依家督有之 八月 依地面高下ニ付

同　土井大炊頭利位也

寺拾石　禅宗　永井寺

右ハ寛永三丙寅年 永井右近大夫直勝開基ニ而法誉

建立ニ御座候 五十石野州都賀郡大谷田村ニ

三拾石　浄土宗　隆岩寺

右ハ岡崎三郎御開基 御家来長三戌年建立

御朱印拾石右寺内八石開基

拾石従家光公御朱印頂戴ニ而

永井右近大夫ヨリ隣地拾石　岡崎三郎様為御

拝領附

三拾石　法花宗　妙光寺

正徳二巳丑年日視上人開基 御朱印下ル保元年

年丈隣地ニ十保　土井遠江守寄附

拾六石　同宗　本成寺

喜暦三代辰年摩訶一院日郎聖人開基

拾六石　禅宗　大聖院

先年坂内村ニ号永昌寺開基大永三癸申年
関山大朝宗賀和尚後ニ青芳　永仙院殿晴氏公
縁命ト小條氏康公対し法名大聖院ト改坂内村
ニ寺ヲ引城し開基

拾石　真宗　長谷寺

寺中親音堂即城門鬼門堂ト云傳ニ時代不知

七石　時宗　西光寺

延慶二己酉年近江国粤備蓮花寺二代月禮勢所尖
[illegible]

拾六石　禅宗　正麟寺

天正三乙亥年咢雙和尚開基

拾六石　真宗　神宮寺

宝徳元己巳年良宥上人開基寺ニ雀大明神
本地堂ニ十一面親音雀ニ名ヲ法雀ト法橋定乾作
御本尊ト七石六斗雀ニ而乾亨院成氏公御建

御除畑九反六畝拾三歩　雀宮社領

従先御除地寺院

武所先反八畝六歩　浄土宗　二定寺

正保元年申ノ　古井遠江守御代開基ナリ
古井国防守ノ除地六町歩五十八歩奇附

壹宗　　鶴脇院

長慶文年中相州藤倉ニ有リ開基年代ニ
無和ニ川稱ニ源ハ古河ニ方　成氏ニ代ニ州
不動堂　一字ハ鶴ヲ[illegible]

六敗廿八歩　同宗　一乘院

[illegible]長二丙申年[illegible]脇院[illegible]賢海為隠[illegible]寺開
基勢至堂　一字

壹宗四敗廿四歩　同宗　地福院

寛永元甲子年法印賢俊開基[illegible]
在[illegible]年建立

六敗六歩　同宗　西蔵院

三反六敗
六反　六敗十八歩

八反六敗廿弐歩　同宗　徳星寺

建治元乙亥年醍醐[illegible]教上人創建[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六反六敗弐歩　浄土宗　宝編寺

永禄弐壬戌年野州大[illegible]
喜上人開基

六敗三歩　時宗　向星寺

寛永四丁卯年[illegible]
[illegible]

三反廿七歩　浄土宗　浄善寺

[illegible]八年[illegible]
[illegible]

四反廿歩　同宗　宗頼寺

天和二丁酉年[illegible]
[illegible]

了念開基廿四年東四郎之古河城ト云

七郎五郎　同宗　福法寺

寛永八年辛未御門前ニ開基

四郎四郎廿六郎　同宗　淨象寺

萬長元年丙申祖師親鸞聖人ヲ子孫ニ開基中絶
又ニ御門弟語ニ開基

弐郎廿郎　淨土宗　了三寺

元和七年丙午大誉上人ニ開基

時宗　桐光寺

寛永十年癸酉正光寺ニ一世立所上人ニ開基

正保二年己酉殘波上人ニ開基　智徳院

萬長元乙未年　禅宗　極昌寺

関徹和尚開基

壱所余　同宗　雲興寺

社中除地

弐反九畝拾八歩　八幡之澄路

大永元辛巳古河公方丹蒙院殿政氏公御命ニ御会
鶴ヶ岡ヨリ御城内ニ勧請ニ御城ニ而辛巳年五十五
寛永十九年壬午年当社ニ引

修験境内除地

壱反四畝廿弐歩　専蔵院

長保元丁丑年乾亨院殿成氏公御建立

大日　同院

壱丈七所拾八間　元亀十七年己巳古河中ゟ寄放

壱所壱所十四間　同院

壱丈八所廿弐間　大樂院

廿七長二丙申年大分開基

壱所弐所廿九間　観音寺

弘治三丁巳年開基所縁内曲輪ゟ所ゟ出

子子堂　開基右ゟ同

神明宮　開発不知

羽黒社　開基二階代ゟ知

寛永七庚午大学院開基　光蔵寺

香取宮　正保二酉年

雷電宮　年ゟ知

所々間数

壱所拾六間　京所

四所四拾八間　臺所

弐所六拾七間　一所目

四所四間　二所目

四所四拾九間　横所

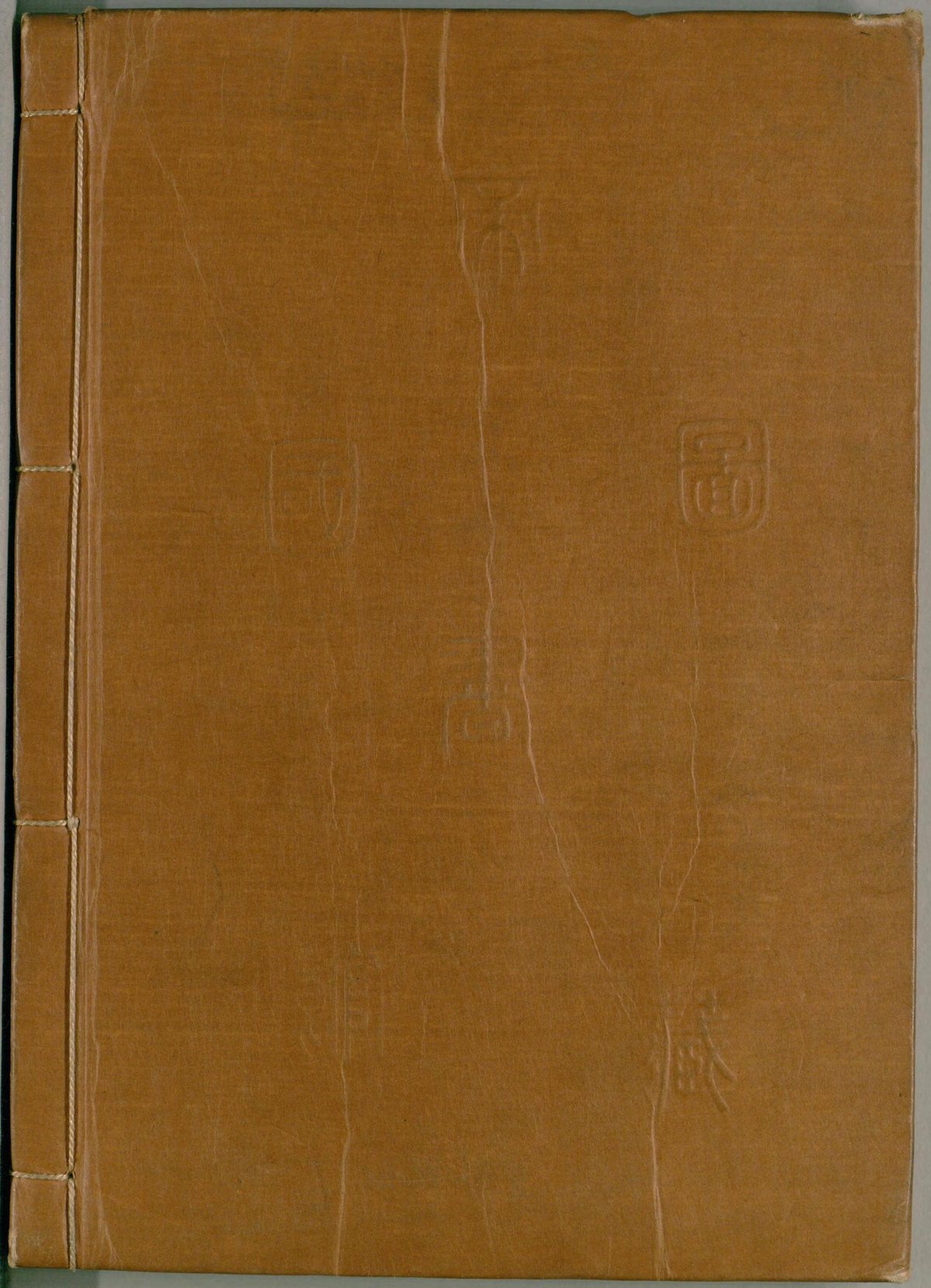
国立国会図書館　タイトル『古河城来由』 請求記号 838-96

ガラス使用

838
96

国立国会図書館　タイトル『古河城来由』 請求記号 838-96

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『古河城来由』　請求記号 838-96

ガラス使用